

件名	令和5年度（第41回）定時総会
日時	令和5年4月20日（木）15:00~16:00
会場	新潟グランドホテル 3階「悠久の間」

〔活動内容〕

1. 概要

去る令和5年4月20日（木）新潟グランドホテルにおいて、令和5年度（第41回）北陸支部定時総会が開催されました。総会は、新型コロナウイルス感染対策が緩和されつつある状況を踏まえ、4年ぶりに出席者を限定せずに通常開催として実施されました。

総会には、会員企業64社のうち、47社（欠席17社は委任状提出）・85名が出席し、寺本支部長より総会成立の宣言に続き開催に際し挨拶がありました。

挨拶では、「令和5年度はコロナ禍により低迷した社会経済の再生に向け、持続可能で高い成長に向けて重要な年となる」ことを踏まえ、「建設コンサルタントは、安全安心な地域づくり、成長へ向けた基盤整備を行い、社会的使命を果たすこと。ニーズとシーズの融合により社会に適切に対応することが求められている。また、新技術の導入、生産性の向上、品質確保を強化することに加え、今後はDX等の推進がポイント」とし、「魅力、希望を持てる建設コンサルタント業の発展に向け加速していくために、積極的な活動に対して今後も協力をお願いしたい」と表明されました。



寺本支部長 挨拶

2. 議事概要

議事では、令和4年度事業報告(案)及び収入支出決算報告(案)が原案通り承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、平成23年度から6期・12年にわたり支部の円滑な運営ならびに発展に貢献いただいた寺本支部長が退任。新支部長として、吉野清文新支部長（開発技建(株)代表取締役社長）を含む5名が新役員として就任することが承認されました。

その後、令和5年度事業計画及び収入支出予算が報告され承認されました。吉野新支部長の就任挨拶として、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策など公共事業をめぐる環境は順調である。一方で新型コロナウイルス感染症対策やウクライナ情勢等に伴う物価高騰対策など財政支出が拡大する中、今後の国民の安全安心を守るためのインフラ整備に対する予算動向が懸念。時代の転換期でもあり、北陸地方のインフラ整備、社会の発展のため、協会が一丸となって適切な運営に努めていきたい」と表明されました。

令和5年度事業計画では、会員の技術力向上のための調査研究や講習会の開催、DXの推進など13事業に対して各部会が活動する報告がなされました。各部会の主な活動は以下の通り。

令和5年度 第41回 北陸支部定時総会 概要

1. 支部長挨拶	
2. 議事録署名人委嘱 (署名人)	<ul style="list-style-type: none"> ・パシフィックコンサルタンツ(株) 北陸支社長 林勝義様 ・(株)建設環境研究所 新潟支店長 長谷川修様
3. 議案	<ul style="list-style-type: none"> ・第1号 令和4年度 事業報告(案) ・第2号 令和4年度 収入支出決算報告(案) 監査報告 ・第3号 役員選任
4. 報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・第1号 令和5年度 事業計画 ・第2号 令和5年度 収入支出予算



吉野新支部長 挨拶

・対外活動部会	発注機関との意見交換に関する事項
・総務部会	会員各社の経営基盤に関する事項 倫理、コンプライアンス等に関する事項
・技術部会	技術力向上に関する調査研究、講習会、社会貢献活動等に関する事項
・広報部会	広報活動、社会貢献活動、広報誌等に関する事項
・災害対策部会	災害対策活動、支援、訓練等に関する事項 災害対策活動支援の検討、調整に関する事項

役員改選に伴う新体制は以下の通り。

支 部 長	吉野 清文 (新)	開発技建 (株)
副 支 部 長	大平 豊	エヌシーイー (株)
副 支 部 長	渡辺 正三	大日本コンサルタント (株)
副 支 部 長	新家 久司	(株) 国土開発センター
運 営 委 員 長	渡邊 雅樹	開発技建 (株)
運 営 委 員	黒木 康生	(株) 日本海コンサルタント
運 営 委 員	瀬川 光太郎	(株) 建成コンサルタント
運 営 委 員	笹谷 輝彦	(株) 国土開発センター
運 営 委 員	大浜 正人 (新)	(株) 建設技術研究所
運 営 委 員	小見 直樹 (新)	エヌシーイー (株)
運 営 委 員	岩澤 弘和 (新)	(株) 構造技研新潟
支 部 監 事	佐々木 大介	(株) ナルサワコンサルタント
支 部 監 事	高野 一博 (新)	大原技術 (株)



定時総会の様子

3. 講演会

総会終了後は、徳山日出男様（一般財団法人国土技術研究センター 理事長）を講師としてお招きし、「社会課題の解決に貢献するこれからのインフラ整備」と題した講演会を開催いたしました。講演内容は以下の通り。

演題 「社会課題の解決に貢献するこれからのインフラ整備」	
①2023年ーインフラ整備が問われる年	<ul style="list-style-type: none"> ・「国土強靱化基本計画」の改定 ・「国土形成計画」の策定（概ね10年間の長期計画） ・各ブロック圏の「広域地方計画」の策定
②東北の復興事業から得られるヒント	<ul style="list-style-type: none"> ・復興事業により得られた成果 <ul style="list-style-type: none"> ✓国土強靱化の進展 ✓地域の課題解決する効果（過疎、地域経済） ・交通流動の活性化・整序化、リダンダンシー確保 ・地方の高規格道路の再評価 ・河川空間と一体となったまちづくり ・国営追悼・祈念施設の整備～震災伝承のために～
③これからのインフラ整備政策	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素施策の主流化 ・道路計画論の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ✓高規格ネットワークの再評価 ✓道路の哲学の変化 ✓新しい課題の解決・新しい技術の活用 ・国土強靱化一人の意識のレベルの防災
④国土技術研究センター（JICE）のミッション	<ul style="list-style-type: none"> ・JICEのミッション ・JICEの向き合う3つの領域 ・JICEの50周年ーインフラ整備が問われる年



講師 徳山 日出男 様
（一財）国土技術研究センター
理事長

本講演では、震災復興にご尽力されたご経験等を踏まえ、今後のインフラ整備のあり方、政策論、社会課題等の解決からインフラ計画を発想する必要性など貴重なご講演をいただきました。

以上、令和5年度（第41回）北陸支部定時総会の概要を報告いたします。